

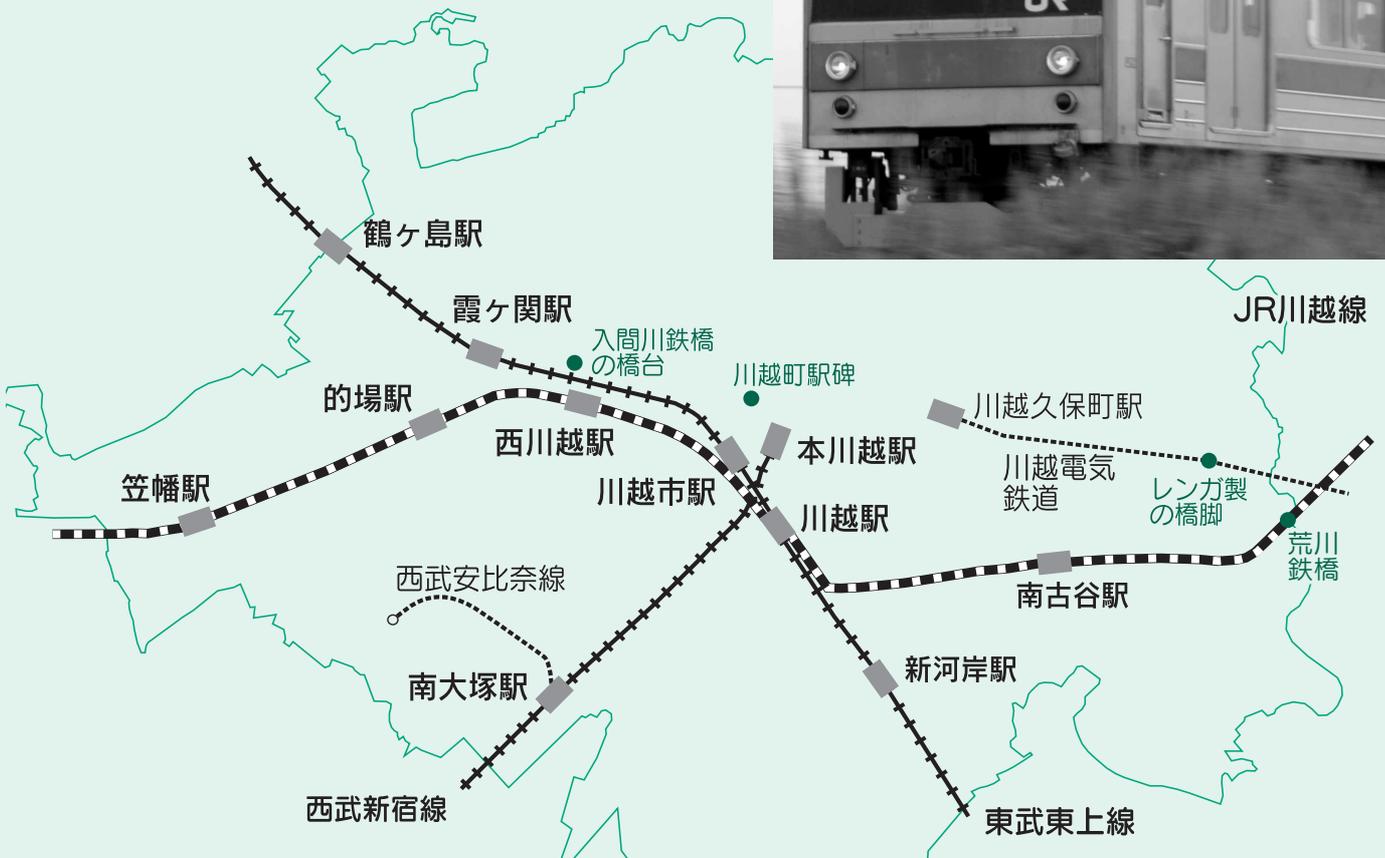
鉄道開設111年

広がる川越の鉄道ネットワーク

明治28年（1895）3月21日、川越と国分寺を結ぶ、川越鉄道（現在の西武新宿線と西武国分寺線）が開通しました。

ことは、川越に鉄道が開通されて111年、それを記念した催しも行われます。この記事では、川越の鉄道の歴史と鉄道網の広がりについて紹介します。

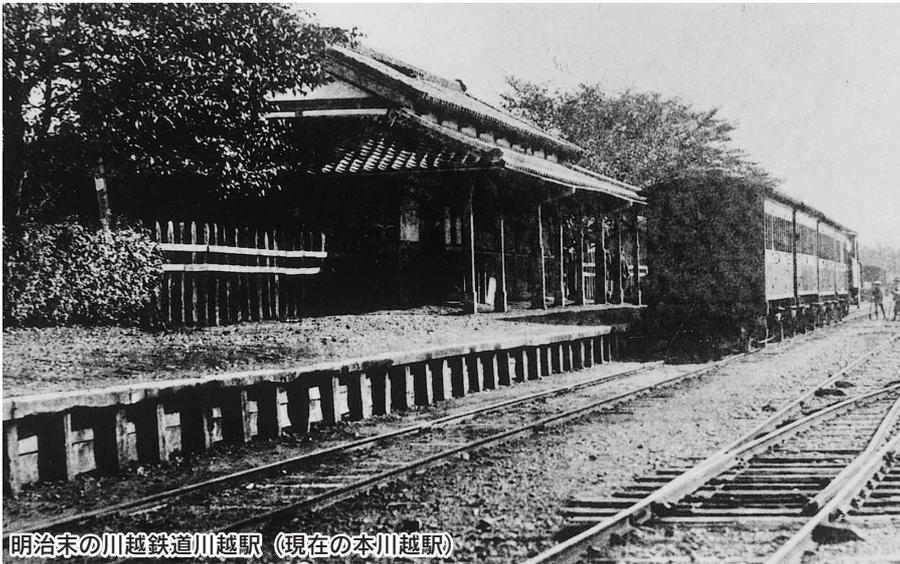
問い合わせ…広聴広報課広報担当・TEL内線2124



鉄道がやってきた

国内で初めて鉄道が開通したのは、明治五年（一八七二）十月十四日の新橋―横浜間でした。

県内初の鉄道は、それから十一年後の同十六年（一八八三）七月二十八日に上野―熊谷間（現在のJR高崎線）が開通しました。その時、県



明治末の川越鉄道川越駅（現在の本川越駅）

内には四つの駅が開設されました。その一つの、上尾駅に向かう乗合馬車が川越から走り始めました。それまで、東京に向かうには、新河岸川の舟運か、川越街道を徒歩で利用するしかありませんでした。それが、鉄道の開設により、新たな交通手段が増えたのです。

同二十二年（一八八九）には、新宿―立川間の甲武鉄道（現在のJR中央本線）が開通します（開通の四か月後に八王子駅まで延長）。

甲武鉄道に接続し、物資を東京に運ぶため、同二十五年（一八九二）に会社が設立されました。それが、現在の西武新宿線・西武国分寺線の前身にあたる川越鉄道です。

そして、同二十七年（一八九四）十二月二十一日、国分寺駅―久米川仮駅（現在の東村山駅）が開通します。その翌年の三月二十一日に、川越駅（現在の本川越駅）まで線路が延び、川越にとって初めての鉄道がやってきました。開通時は一日五往復、国分寺駅―川越駅間の所要時間はおよそ一時間でした。

市内にできた駅は当初、川越駅のみでした。開通から二

明治の鉄道計画ブーム

明治30年前後は、関東各地で鉄道建設計画がありました。

当時開通していた路線は、現在の東海道本線・中央本線・東北本線・高崎線など、東京から放射状に伸びる路線がほとんどでした。当時の計画は、鉄道未開通地への路線のほか、既存の路線を結ぶ環状形の路線計画も多くありました。

川越を通過地に設定する会社もあり、川越から大宮・越谷を経て、千葉県の松戸・佐倉につながる路線や、成田につながる路線を計画した会社もありました。

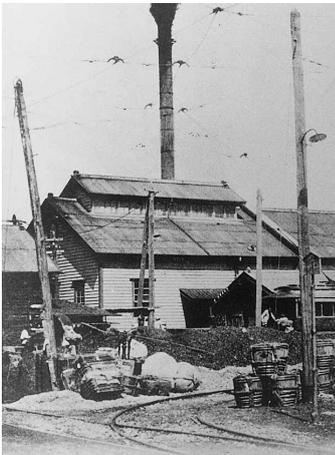
一部で実現した路線があったものの、そのほとんどは計画のみで終わってしまいました。もし、これらの計画がこのときに実現していたら、今の鉄道地図は変わっていたかもしれません。

チンチン電車走る

年後の同三十年（一八九七）十一月に、南大塚駅が開業しました。

川越鉄道の開通から七年後の明治三十五年（一九〇二）に、川越馬車鉄道が大宮への路線を開業します。

その後、社名を川越電気鉄道に変更し、同三十九年（一九〇六）に川



久保町には火力発電所がありました。右奥にはチンチン電車が止まっています

越久保町駅

（現在の中央公民館付近）

―大宮駅間の電車運行が始まります。

この路線は、陸軍の鉄道大隊がわずか三か月で完成させたといわれています。

市内には五つの駅があり、大宮までおよそ十三キロの道のりを四十五分ほどで結んでいました。

県内初の路面電車で、チンチン電車の愛称で親しまれていました。川越鉄道と共に、東京への新たな交通路として利用されていきました。しかし、昭和十五年、現在のJR川越線の登場により、廃止されました。



古谷上にあるチンチン電車のレンガ製の橋脚

